



◎ 小中一貫教育を切り拓く（その3）

シリーズ最終号となる本だよりでは、「子どもの側に立った連続的な教育」について具体的にお話しさせていただきます。



(5) 「子どもの側に立った連続的な教育」の実現に向けて

「子どもの側に立った連続的な教育」の実現に向けて、私たち教師はどのように取り組んでいけばよいでしょうか。実は、現段階でその明確な答はありません。今まさに小中一貫教育に先駆的に取り組んでいる学校や研究機関等が、その答を究明しているというのが現状です。穂波東校としても、何かできることはないでしょうか。

そこで一つ提案です。まずは、穂波東校の中で「子どもの側に立った連続的な教育」の実現に向けた意見交流をしてみてもどうでしょうか。例えば、穂波東校の中で、指導者が変わることで「学習や生活のルールやスタイル等が大きく変わるようなことはないか。」「以前やったことと同じような学習活動をさせていることはないか。」等について、互いに実態を出し合い、それに対して意見を交流し合うようなことから始めてみるはどうでしょうか。

もし上記のような意見交流の成果をカリキュラムに反映させることができれば、それは有効性のあ
るカリキュラムマネジメントの実現にも繋ぐことができます。但し、このことは、その次の段階に取り
組むことであると考えますので、まずは、実態を出し合うことから始めてみましょう。

小中一貫教育の推進は「無理なく・無駄なく・効率よく」！



(6) 「子どもの側に立った連続的な教育」と働き方改革

「子どもの側に立った連続的な教育」を実現することは、教師にとっても大きなメリットがあります。この「教育」は、教師の側から見れば、業務効率の改善であると言えます。もし、穂波東校として一貫した学習や生活のルールやスタイル等を確立することができれば、これに係る年度初めの指導を効率良く進めることが可能になります。また、同じような学習活動の繰り返しを減らすことができれば、指導業務の軽減に直結します。

「子どもの側に立った連続的な教育」の実現を通して、「教師の働き方改革」の実現を図りましょう。